

全国学力・学習状況調査の結果と 変わりゆく学校での学び

= 変わる学力 =

学校ではこれまで、子ども達に知識や技能を伝達する場として存在していきました。しかし技術革新や少子高齢化により社会が大きく変化している現代では、知識や技能だけではこれからの予測不能な社会を生き抜くことが難しくなっています。知識や技能だけではなく、主体的に学ぼうとする力や他者と関わりながら課題を解決する力もバランスよく育てていく必要があります。

右の表は、今年4月に小学6年生と中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果です。

調査結果を分析すると中位層未満の正答率が低く、授業で取り残されている子どもが多く存在している現状が分かってきました。

令和6年度全国学力・学習状況調査（平均正答率）				
学年	小学6年生		中学3年生	
	曾於市	全国	曾於市	全国
国語	65%	68%	49%	58%
算数・数学	58%	63%	44%	53%

= 変わる学び：教師が教える授業から、子どもが主体的に学ぶ授業へ =



年々、高校・大学入試問題も内容が高度化し、解き方を暗記するだけでは解けない問題が出題されています。学んだ知識をどのように活用するかという視点が重視されます。このような時代の流れに対応するには、授業を変えていかなくてはなりません。

教育委員会では、子ども達が与えられた課題や自ら疑問に思ったことを教科書やICT端末を使ったり誰かに質問したりすることで、他者と学び合いながらも自らの力で課題解決に近づいていく「探究的な学び」を推進しています。そのためには、授業を教師主導から子ども主体へと転換することが求められます。曾於市の先生方は研修をとおして、子どもの可能性を広げるために、これからの授業がどうあるべきかを学んでいます。教育委員会では、子どもの学びを支える教師のために、曾於市教育センターを中心に教員研修の充実を図っています。



= 変わる教室 =



子ども達は1人1台の端末を持ち、授業や家庭学習の中でデジタルコンテンツを活用して内容を理解したり、AIドリルを活用して習熟を図ったり、他校の子どもとリモートで意見交換したりと、学校での学び方も変化しています。今年度、県全体で行われる学力調査も端末で行われます。社会のデジタル化が急速に進む今、子ども達はデジタルリテラシーを身に付ける必要があります。**端末を使いながら、端末の使い方を学ぶ。**教育委員会では学校での活用はもちろん家庭への持ち帰りを推進し、子ども達のデジタルリテラシーを高めていきます。

= 地域が育む「かごしまの教育」県民週間 =

11月1日（金）から11月7日（木）までの7日間は「かごしまの教育県民週間」となっています。市内の各小・中学校では子ども達の学びを見てもらうため、自由参観やイベントが予定されています。ぜひ訪問してみませんか？